

第205回 令和8年4月7日（火）

「一人で生きているつもりでも」

私は平日の朝、5時半ごろに家を出ます。電車を乗り継いで学校に着き、パソコンを立ち上げてからメールの確認をして、その後に校長通信を書いています。ポットでお湯を沸かしてコーヒーを飲みながら1日の流れを整理して、仕事の計画を立てます。

私一人の朝のルーティンですが、自分一人だけでできることは一体どれくらいあるのでしょうか。

平日の朝、起きて出かけるときドアを開けて鍵を掛けます。もしドアが壊れて開かなくなったら私は直すことができません。ドアを作った人の助けがあってこそ出かけることができます。鍵も同じです。

電車を動かすことはもちろん、改札を通り抜けることも一人ではできません。機会をメンテナンスする人や、定刻通り電車を走らせる人、そして駅の安全を管理する人など姿は見えなくても多くの人が関わっています。

学校に着きました。朝早くから学校を開けてくれている施設管理の方がいます。早朝には売店で販売するパン屋のトラックも入ってきます。パソコンは修理も自力では難しいですし、動かす電気はどこかで発電してくれているものです。24時間年中無休で途切れることはありません。

コーヒーだって自分で作っているわけではありません。遠くの国でコーヒーのみを栽培している人がいるから飲めるわけです。お湯を沸かすポットも自分が作ったわけではないですし、作れません。朝の時間だけでもこれだけ多くの人間が支えてくれているのです。

そう考えれば今の世界に一人で生きることがどれだけ難しいことかわかると思います。山奥で完全に自給自足の暮らしをしたとしても、なかなか独力だけで生活することは困難です。ともすれば忘れがちなことですが「自分は一人で生きているわけではない」ことを思い出してください。

世の中に不平不満を言って、自分の孤独を嘆く人がいますが、支えられていることをわかっていない、もしくは見えていないのだと思います。常にいろいろなことに感謝の気持ちを持つと心に余裕ができて他者の助けに気づくことができるのではないのでしょうか。

朝、仕事に行くのが憂鬱な時もあります。それでも自分が仕事に行けるのは多くの人が自分の仕事をしっかりやり遂げているからできることなのです。そこに感謝して、自分もしっかり仕事をして他者を支えなくてははいけません。